

【声明】

2024年10月16日

長崎県保険医協会 会長 本田 孝也

日本被団協のノーベル平和賞受賞を祝す

日本被団協が2024年のノーベル平和賞を受賞したことに心よりのお祝いを述べたい。

ウクライナ、中東で戦闘が激化し、世界が平和から戦争の時代に向かおうとしている状況の中、数ある候補の中から被爆者の団体がノーベル平和賞に選ばれたことは意義深い。

特に、ノーベル賞委員会が「ヒバクシャによる草の根運動であり、核兵器が二度と使われてはならないことを、目撃証言を通じて示してきたこと」を授賞理由としてあげたことが注目される。このことは、日本被団協のみならず、全ての被爆者が受賞した平和賞であることを示している。

国外でノーベル平和賞に値すると評価された被団協の声がどうして自国の政府に届かないのか。被団協が再三にわたって要望しているにもかかわらず核兵器禁止条約を批准せず、締約国会議へのオブザーバ参加すら拒否している日本政府の姿勢はノーベル平和賞を受賞した国としてあるまじきものである。

また、被爆者でありながら未だ被爆者と認められない長崎の被爆体験者の声も届いていない。全ての原爆被害者は被爆者とし認められるべきである。

当会は開業医宣言の平和の希求「人命を守る医師はいかなる戦争をも容認できない。私たちは歴史の教訓に学び、憲法の理念を体して平和を脅かす動きに反対し、核戦争の防止と核兵器廃絶が現代に生きる医師の社会的責任であることを確認する。」のもとに核兵器廃絶を求めて活動してきた。これからも被爆者の声に耳を傾け、全ての国民が平和に暮らせる社会の実現を目指したい。

ノーベル平和賞受賞により世界が注目している今こそ、我国が核の傘から脱却し、理想論ではなく現実論として核兵器廃絶の道へ舵を切ることを期待したい。

以上